

MIC Worship Service – 2025.04.13

Title: *“Jesus As a Servant”*

Text: John 13:1~17, NIV

MIC 礼拝 - 2025.04.13

『僕（しもべ）としてのイエス』

聖書箇所：ヨハネによる福音書 13 章 1~17 節（新改訳）

¹ It was just before the Passover Festival. Jesus knew that the hour had come for him to leave this world and go to the Father. Having loved his own who were in the world, he loved them to the end.

² The evening meal was in progress, and the devil had already prompted Judas, the son of Simon Iscariot, to betray Jesus. ³ Jesus knew that the Father had put all things under his power, and that he had come from God and was returning to God; ⁴ so he got up from the meal, took off his outer clothing, and wrapped a towel around his waist. ⁵ After that, he poured water into a basin and began to wash his disciples' feet, drying them with the towel that was wrapped around him.

⁶ He came to Simon Peter, who said to him, *“Lord, are you going to wash my feet?”* ⁷ Jesus replied, *“You do not realize now what I am doing, but later you will understand.”*

⁸ *“No,”* said Peter, *“you shall never wash my feet.”* Jesus answered, *“Unless I wash you, you have no part with me.”*

⁹ *“Then, Lord,”* Simon Peter replied, *“not just my feet but my hands and my head as well!”*

¹⁰ Jesus answered, *“Those who have had a bath need only to wash their feet; their whole body is clean. And you are clean, though not every one of you.”* ¹¹ For he knew who was going to betray him, and that was why he said not every one was clean.

¹² When he had finished washing their feet, he put on his clothes and returned to his place. *“Do you understand what I have done for you?”* he asked them. ¹³ *“You call me ‘Teacher’ and ‘Lord,’ and rightly so, for that is what I am. ¹⁴ Now that I, your Lord and Teacher, have washed your feet, you also should wash one another’s feet. ¹⁵ I have set you an example that you should do as I have done for you. ¹⁶ Very truly I tell you, no servant is greater than his master, nor is a messenger greater than the one who sent him. ¹⁷ Now that you know these things, you will be blessed if you do them.”*

1 さて、過越の祭りの前に、この世を去って父のみもとに行くべき自分の時が来たことを知られたので、世にいる自分のものを愛されたイエスは、その愛を残るところなく示された。

2 夕食の間のことであった、悪魔はすでにシモンの子イスカリオテ・ユダの心に、イエスを売ろうとする思いを入れていたが、3 イエスは、父が万物を自分の手に渡されたことと、ご自分が神から出て神に行くことを知られ、4 夕食の席から立ち上がって、上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれた。5 それから、たらいに水を入れ、弟子たちの足を洗って、腰にまとっておられる手ぬぐいで、ふき始められた。

6 こうして、イエスはシモン・ペテロのところに來られた。ペテロはイエスに言った。「主よ。あなたが、私の足を洗ってくださるのですか。」7 イエスは答えて言われた。「わたしがしていることは、今はあなたにはわからないが、あとでわかるようになります。」

8 ペテロはイエスに言った。「決して私の足をお洗いにしないでください。」イエスは答えられた。「もしわたしが洗わなければ、あなたはわたしと何の関係もありません。」

9 シモン・ペテロは言った。「主よ。私の足だけでなく、手も頭も洗ってください。」10 イエスは彼に言われた。「水浴した者は、足以外は洗う必要がありません。全身きよいのです。あなたがたはきよいのですが、みながそうではありません。」11 イエスはご自分を裏切る者を知っておられた。それで、「みながきよいのではない」と言われたのである。

12 イエスは、彼らの足を洗い終わり、上着を着けて、再び席に着いて、彼らに言われた。「わたしがあなたがたに何をしたか、わかりますか。13 あなたがたはわたしを先生とも主とも呼んでいます。あなたがたがそう言うのはよい。わたしはそのような者だからです。14 それで、主であり師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのですから、あなたがたもまた互いに足を洗い合うべきです。15 わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしはあなたがたに模範を示したのです。16 まことに、まことに、あなたがたに告げます。しもべはその主人にまさらず、遣わされた者は遣わした者にまさるものではありません。17 あなたがたがこれらのことを知っているのなら、それを行うときに、あなたがたは祝福されるのです。」

Introduction

はじめに

On the night before His crucifixion, Jesus didn't perform a dazzling miracle. He didn't preach a lengthy sermon. He bent down, wrapped a towel around His waist, and washed feet. The King

of Kings took the posture of a servant. It's not the kind of move that makes headlines, but it's the kind that makes disciples.

十字架につけられる前夜、イエスはめくるめく奇跡を起こしたわけでもなければ、長い説教をしたわけでもありませんでした。イエスは、かがんで腰に手ぬぐいを巻き、弟子達の足を洗われたのです。王の王が、しもべのような姿勢を取られたのです。そのようなイエスの行動は、話題作りのためではなく、弟子のためにとった行動でした。

John 13 begins with this intimate moment:

ヨハネによる福音書 13 章は、次のような親密な表現から始まっています：

"Having loved his own who were in the world, he loved them to the end" (John 13:1).

「世にいる自分のものを愛されたイエスは、その愛を残るところなく示された。」

(ヨハネによる福音書 13 章 1 節)

Maundy (Holy) Thursday invites us to remember not just ***what*** Jesus did, but ***why*** He did it. This is a picture of love rooted in humility, a love that stoops to serve, even when surrounded by betrayal.

洗足（聖）木曜日とは、イエスが**何を**されたのかを思い出させてくれるだけでなく、**なぜ**そうされたのかを思い出す日だと私たちに教えてくれています。それは、謙遜に根ざした愛を示してくれており、裏切られてもなお、身を低くして仕えようとする愛の姿を示してくれているのです。

I. The Heart of the Servant: Knowing Yet Serving - verses 1~5

I. 仕える者の心：知っていながら仕える-1~5 節

"Jesus knew that the hour had come... Jesus knew that the Father had put all things under his power..." (vv. 1, 3)

「自分の時が来たことを知られた、 、 、 イエスは、父が万物を自分の手に渡されたことを知られ、 、 。」 (1、3節)

Let's pause here. Jesus **knew**:

- His **hour** had come (v.1),
- His **betray**er was present (v.2),
- His **author**ity had been given (v.3).

ここで一旦、考えてみましょう。 **イエスは知っていたのです。**

- 彼の**時**が来たこと (1 節)
- 彼に**裏切り者**がいたこと (2 節)
- 彼に**権威**が与えられたこと (3 節)

Yet, knowing all this, He chose to serve. **Jesus didn't act out of ignorance but out of love.**

しかし、それらすべてのことを知っていながら、それでもイエスは、仕えることを選ばれたのです。 **イエスは知らないからそうされたのではなく、愛ゆえにそうされたのでした。**

APPLICATION: True servanthood flows from identity. Jesus, secure in His relationship with the Father, stooped to serve. The world says, "*Climb higher!*" Jesus says, "*Go lower.*" The world prizes being *served*; Jesus prized *serving*.

適用：真の奉仕とは、アイデンティティー（自分が誰であることを知る）から生まれます。イエスは御父との関係を確認していたので、自分の身を低くして仕えられました。この世の人々は「向上しろ。」と言いますが、イエスは「へりくだれ。」と言われました。この世の人々は『仕えられる』ことを尊びますが、イエスは『仕える』ことを尊ばれたのです。

Philippians 2:6~7 – *Though He was in very nature God... He made Himself nothing, taking the very nature of a servant.*

ピリピ人への手紙 2 章 6 – 7 節—6 キリストは神の御姿である方なのに、、、ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。

CHALLENGE: Are we willing to serve even when no one sees? Even when we are the leader in the room?

課題：たとえ誰も見ていなくても、私たちは喜んで奉仕できているでしょうか？たとえ自分がその場のリーダーであっても、他の人に仕えることが出来ているでしょうか？

II. The Resistance of Pride: Peter's Objection - verses 6~11

II. プライドによる抵抗：ペテロの反論—6～11 節

“No,” said Peter, “you shall never wash my feet” (v.8).

ペテロはイエスに言った。「決して私の足をお洗いにならないでください。」（8 節）

Peter's reaction is both humble and proud at the same time. He couldn't bear the thought of his Master doing something so lowly. But in doing so, he was about to miss the **spiritual cleansing** Jesus was offering.

その時のペテロの反応は、謙虚であると同時にプライドに満ちています。彼は、自分の師がそんな卑しいことをしていると思うと耐えられなかったのです。しかしペテロは、そう言ったことによって、イエスが与えてくれようとしている**霊的な清め**を見逃すことになります。

Jesus replied: ***“Unless I wash you, you have no part with me”*** (v.8).

イエスは答えられた。「もしわたしが洗わなければ、あなたはわたしと何の関係もありません。」（8 節）

This wasn't just about hygiene—it was about **holiness**. Foot-washing symbolized what only Jesus could do: cleanse hearts and restore sinners.

足を洗うということは単なる衛生上の問題のことではなく、**清める**ということの意味しています。すなわち、足を洗う（清める）ということは、イエスだけができることであり、心を清め、罪人を回復させるということを象徴していたのでした。

APPLICATION: Some resist Jesus' grace today in the same way. *"I'll fix myself first,"* they say. But unless *He* washes us, we remain unclean. There's no salvation in self-effort—only in surrender.

適用：同様に、今日（こんにち）もイエスの恵みを拒否しようとする人々がいます。「まず自分をなおさなければ。」と彼らは言います。しかし、イエスが私たちを洗って清めてくださらない限り、私たちは汚れたままなのです。自分の努力によって救いは見出せません。委ねることによって救いは見出せるのです。

Titus 3:5 – *He saved us, not because of righteous things we had done, but because of His mercy.*

テトスへの手紙 3 章 5 節—5 神は、私たちが行った義のわざによってではなく、ご自分のあわれみのゆえに、聖霊による、新生と更新との洗いをもって私たちを救ってくださいました。

INVITATION: Have you allowed Jesus to wash your feet, your heart, your life? Or are you still trying to earn your way into grace?

あなたはイエスに足を、心を、人生を洗ってもらいましたか？それとも、まだ自分で恵みを得ようとしているのでしょうか？

III. The Pattern for Disciples: *"Do as I Have Done"* - verses 12~17

III. 弟子の行動：「わたしがしたようにしなさい」-12~17 節

"Now that I, your Lord and Teacher, have washed your feet, you also should wash one another's feet." (v.14)

それで、主であり師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのですから、あなたがたもまた互いに足を洗い合うべきです。（14 節）

Jesus wasn't instituting a new religious ritual. He was showing **a new way of life**. He flipped the world's model of leadership: from a throne to a towel.

ここでイエスは、新しい宗教儀式を定めたわけではないのです。私たちに**新しい生き方**を示してくれたのです。「王座」から「手ぬぐい」へと、世界の指導者としての模範を大きくひっくり返したのです。

He says in verse 17: ***"Now that you know these things, you will be blessed if you do them."***

イエスは 17 節 で次のように述べています。 **「あなたがたがこれらのことを知っているのなら、それを行うときに、あなたがたは祝福されるのです。」**

Not just know—but **do**.

知っているだけではなく、**実行**しなさいと言っています。

In the English New Testament, the word **"servant"** commonly translates the Greek term ***doulos***, which refers to a bondsman—someone who belongs wholly to his master. At times, it is also translated from the Greek word ***diakonos***, meaning deacon or minister. Though these two words have slightly different nuances, both point to a profound truth: *the servant is not his own*. He is the purchased possession of his master, bound to carry out his master's will, not his own.

英語の新約聖書に書かれている ***servant*** という単語は、一般的にはギリシャ語の ***doulos*** という言葉を訳したもので、「主人に属する者」を意味します。また同単語は、「祭司や牧師」を意味するギリシャ語の ***diakonos*** という言葉から訳されることもあります。この 2 つの言葉は微妙にニュアンスが異なりますが、どちらも深い真理を示してくれています。なぜなら、イエスは主の所有物であり、自分の意志ではなく、主人の意志を実行するように行動していると言えるからです。

This means that Christian service, at its core, is about **living in complete submission to Christ**, our Lord and Redeemer. As Paul reminds us, ***"You are not your own; you were bought at a price"*** (1 Corinthians 6:19~20). Our lives are no longer ours to govern. We belong to Jesus, and our calling is to be available to Him—heart, soul, mind, and strength.

つまり、クリスチャンの奉仕とは、私たちの主であり贖い主である**キリストに完全に服従して生きる**ということがその核となるのです。パウロはコリント人への手紙第一 6 章 19~20 節で、「あなたがたは、もはや**自分自身のもではなく、代価を払って買い取られたのです。**」と、私たちに教えてくれています。私たちの人生は、もはや私たちのものではありません。私たちはイエスのものであり、私たちの召命は、心、魂、精神、そして力において、イエスのために用いられることなのです。

But what does our Master ask of His servants? Jesus made it unmistakably clear: **to serve Him is to lower ourselves in service to one another.** The way to greatness in His Kingdom is not through personal elevation but through **humble acts of love** toward fellow believers. In fact, Jesus demonstrated this during the Last Supper when He, the Teacher and Lord, took the place of a household servant and washed the feet of His disciples.

では、主人はしもべたちに何を求めているのでしょうか？ イエスは、**神に仕えるということは、互いに仕え合うために自分をへりくだることだ**と、明白に示してくれました。主の御国においては、高みに登りつめ個人的に何かを達成することより、同胞である信者たちに対する**へりくだった愛の行為**のほうが偉業とみなされるのです。実際、イエスは最後の晩餐のときに、師であり主であるご自分が、一家の使用人のように弟子たちの足を洗われました。

This foot-washing was not symbolic of preaching or leading—it was **a living picture of sacrificial love**, a love that stoops to serve, even when the task is uncomfortable, inconvenient, or seemingly beneath us.

この足を洗うという行為は、説教や指導を象徴するものではなく、すなわち、たとえそれが不快であったり、不都合であったり、下等なことであるように見えたとしても、その行為は、自身を低くして仕えようとする**犠牲的な愛の姿**を表しているのです。

When the New Testament speaks of **“ministering to the saints,”** it’s not only referring to preaching or teaching, but to **sacrificing time, resources, and energy** to meet the real, daily needs of God's people. It is, in essence, **loyalty to our King expressed through care for His people**—a truth Jesus illustrated in His parable of the sheep and the goats (Matthew 25:31~46), where acts of mercy were seen as service unto Him.

新約聖書が「**聖徒に仕える**」と語るとき、説教や指導をすることだけを意味しているのではなく、神の民の日々の真の必要を満たすために、**時間、資源、労力を犠牲にすることも**指しています。それは要するに、神の民へ配慮することによって**王への忠誠心が表される**ということであ

り、イエスが羊と山羊のたとえ話（マタイによる福音書 25 章 31～46 節）の中で示されている真理なのです。

And how do we develop such a heart? It is not something we can manufacture on our own. **Only the Holy Spirit** can birth within us a love so rich and selfless that it overflows in practical compassion and thoughtful care for the body of Christ. As we walk closely with our Savior, His love reshapes us into willing servants, ready to do whatever He calls us to do—even the lowliest tasks—for His glory and the good of His people.

では、私たちはそのような心をどのように育むことができるのでしょうか。それは、私たちが自力で作り出せるものではないのです。キリストの体である教会に対する真摯な憐れみと、思慮に溢れる豊かで無私の愛を、私たちの内に生み出すことができるのは、**聖霊だけなのです**。私たちが救い主と近しく歩むなら、救い主の愛は、私たちを喜んで仕える者に造り変えてくださいます。すると私たちは、主が呼びになれば、主の栄光と人々の益のために何でも、たとえどんなに最低な仕事でもできるようになるのです。

APPLICATION: Servanthood is not optional for followers of Christ. It's the family resemblance of God's children. Whether it's cleaning a floor, praying with someone in pain, or welcoming the overlooked—*this is greatness in the Kingdom of God*.

適用：キリストに従う者にとって、仕えることは選択肢ではないのです。それは、神の子どもたちの家族に似ています。床を掃除することであれ、苦しんでいる人と共に祈ることであれ、見放された人々を歓迎することであれ、そのような働きは神の国においては素晴らしいことなのです。

- Mark 10:45 – “*For even the Son of Man did not come to be served, but to serve...*”
- マルコの福音書 10 章 45 節一人の子が来たのも、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、、、。
- Galatians 5:13 – “*...serve one another humbly in love.*”
- ガラテヤ人への手紙 5 章 13 節一、、、愛をもって互いに仕えなさい。

You may feel your service is small, hidden, or unnoticed. But take heart: *Every towel taken up in Jesus' name is remembered in heaven.*

あなたは、自分のしている奉仕がちっぽけで目立たないので、誰も気づいていないと感じているかもしれません。しかし、「イエスの名によって取り上げられたものは、たとえ手ぬぐいでも、すべて天で記憶されるのだ。」ということのを心に留めておいてほしいのです。

Conclusion 結語

Remembering Maundy Thursday, may we be freshly rooted in the humility of Christ. He who had all power chose the path of the servant. He who was about to wear a crown of thorns first picked up a basin of water.

洗足木曜日（聖木曜日）を思い出すにあたって、あらためて私たちが、キリストの謙虚さに根ざすことができますように。キリストは万能の力を持っておられたのに、しもべとしての道を選ばれたのです。いばらの冠をかぶることになるお方は、まず水の入ったたらいを手にとられたのです。

Though people are obsessed with position, let's walk in submission. Though many are chasing applause, let's embrace the towel. For it is there—in humble service—that we are closest to Christ.

たとえ多くの人々が地位に執着しても、私たちは服従の道を歩もうではありませんか。とたえ多くの人々が喝采を追い求めている、私たちは手ぬぐいを受け入れようではありませんか。なぜなら、謙虚な奉仕の中でこそ、キリストに最も近づくことができるからです。

John 13:35 - *By this everyone will know that you are my disciples, if you love one another.*

ヨハネの福音書 13章35節—35 もし互いの間に愛があるなら、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。

Let's pray: *"Lord Jesus, You knelt where we often refuse to go. You served when You had every right to reign. Cleanse our hearts, not just our feet. Teach us to serve with joy, to love without limit, and to walk in Your footsteps—not toward applause, but toward obedience. In Your holy name, Amen."*

祈りましょう：

「主イエスよ、あなたは、私たちがしばしば拒んでしまうようなことも、ひざまずいてされました。あなたは、治める力や権威を十分にお持ちだったにもかかわらず、仕えられました。私たちの足だけでなく、どうぞ心も清めてください。私たちが喜びをもって仕え、限りない愛を持ち、賞賛のためではなく、従順になれるように、あなたの足跡をたどって歩めるように、私たちに教えてください。あなたの聖なる御名によって、アーメン。